

【奨励賞】

団体名	佐賀県立牛津高等学校「目指せスペシャリスト・輝く未来を創り出そう」 （さがけんりつうしづこうとうがっこう「めざせすべしやりすと・かがやくみらいをつくりだそう」
活動の内容 （概要）	家庭科の強みである「ものづくり」や「コミュニケーション力」を生かしながら、地域との協働により、地域活性化につながる取組を行っている。中でも、学校設定科目「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」では、地域の課題発見・解決をテーマとした実践的学習に長年取り組んでおり、これまで、地域の農産物等を活用した食品や服飾品の商品企画・販売、行政に対する地域魅力向上計画の提案等、生徒のアイデアを形にした活動を継続している。

受賞理由

- 家庭科単独校ならではのものづくりの実践が、関係機関等との連携を深めながら17年間もの間継続され、地域に浸透している様子が見られる。地域課題の発見と解決を目指し、結果として商品開発に至るプロセスは、取り組む生徒にとっても魅力的であり、「起業家入門」が人気の科目になっているのも頷ける。この活動で育まれた起業家マインドが、生徒たちのその後にどのように影響していくのか興味深い。
- スペシャリストを目指す明確な方向性が、家庭科単独の高校とリンクしてスタンスがわかりやすい。廃校の危機感から取り組みにドライブがかかるケースは、単科高校等での好事例となる。授業との連携も幅広く行っており、人口減少や高齢化の地域課題対応に向けて、地域の教育機関が小中学校や児童クラブなど縦につながる好事例でもある。
- 家庭科単独の専門高校としての強みを活かした多様な取組が展開されているが、とりわけ、近隣の小中学校や児童クラブからの「活動充実のため高校生の力を借りたいという要望」を踏まえ、高校生が地域の子どもたちを育てる担い手に加わって食育や製作活動を企画し実践し、その結果、自らが教える立場となることを通して更なる学びに向かう態度の伸長にも役立っていると報告されている点が高く評価される。また、この活動が17年間継続されていることも評価すべきである。
- 牛津高等学校のキャリア教育プログラム17年の継続の力が、進路内定率100%に現れているのではないかと考えた。家庭科単独の高校で各科は職業に直結している学びであるが、起業家マインドを身に着けたことで、地域活動と積極的にネットワーク作りをすすめ、イベントの成功などが生徒の自信となり、地域からの信頼にもつながっていると考えられる。いい循環が起こっている。今後、さらに起業家マインドを有したスペシャリストが活躍する場が広がっていくのではないかと感じた。
- 地域課題を生かした目標設定や運営方法がとても良い。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

佐賀県立牛津高等学校、小城市立牛津中学校、佐賀市立思斉中学校、小城市立牛津小学校、小城市立砥川小学校、佐賀市立思斉小学校、牛津ルーテルこども園

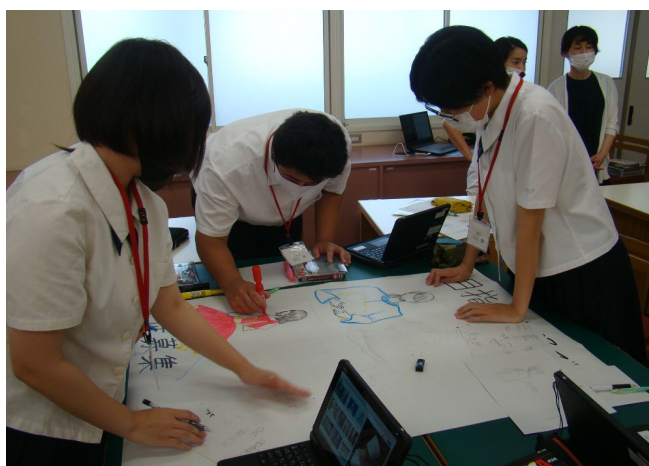
【行政や地域・社会、産業界等】

NPO 法人鳳雛塾、ふるさと・夢つむぎネットワーク、小城市、小城市教育委員会

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成 17 年～ 【継続年数】17 年

「協力性」についての具体的な取組，工夫している点など



＜「起業家入門Ⅰ」でのプレゼンテーション資料作成の様子＞

本校の特色ある教育活動は、地元企業や行政機関等との連携に支えられている。特に、県内の児童生徒や社会人向けに起業家教育を実施している NPO 法人「鳳雛塾」との協働体制は、本校のキャリア教育推進に大きなプラスとなっている。同法人とは、本校が起業家マインド育成に係る教育課程の検討を始めた当初から 17 年継続して共に教育活動に取り組んでおり、学校設定科目『起業家入門Ⅰ』では毎年、企画演習の講師を務める等、「起業家マインドを身に付けた生活産業のスペシャリスト育成」に向け、互いに力を尽くしている。

また、地域の里山を元気にする活動を行っている「ふるさと・夢つむぎネットワーク」との連携も欠かせない。後継者不

足による耕作放棄地の増加をなんとか食い止めたいという同団体の思いと、生徒の学びを地域貢献に繋げたいという本校の思いを共有し、本校家庭クラブが中心となって互いの活動をサポートしあう良い関係を築いている。定期的な里山の環境保全活動では、清掃活動はもちろん、収穫した梅を用いたジャムやステーキソース、梅の樹皮による草木染の服飾品を製作・販売して好評を得ており、生徒の自信になっている。

さらに、小城市が行う棚田保全活動、小城市教育委員会の放課後子ども教室事業や小中学校の家庭科の授業においては、専門的学習で得た知識と技術、企画力やプレゼン力をフルに発揮した食育活動等を行い、地域住民や子どもたちの大きな信頼を得ている。

「継続性」についての具体的な取組，工夫している点など

学校設定科目「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」は、科目「生活産業基礎」や「課題研究」、「総合的な探求の時間」とリンクした学習ができるよう工夫しており、家庭クラブ活動も含め、それらの指導体制を確立することが生徒の地域貢献の活動を継続していく鍵だと認識している。

そこで、どの科目も複数で指導する体制を整え、新任の場合でも必ず指導経験のある教員と T T を組んで継続的な指導ができるよう配慮し、鳳雛塾等の外部指導者が関わる場合は、打ち合わせを毎年講座開始前に綿密に行うとともに授業毎の振り返りも共有し、互いに評価・改善しながら授業を進めている。

なお、1 年次全員履修の「生活産業基礎」では、商品企画やマーケティングの基礎などを地元企業で体験的に学ぶことで、2 年次の「起業家入門Ⅰ」、3 年次の「起業家入門Ⅱ」及び「課題研究」の学習活動にスムーズに進めるようにしており、いずれの科目も指導の経過等について教員で情報共有している。

また、3 年次履修の「課題研究」や「起業家入門Ⅱ」では、研究・実践テーマを先輩から引き継いで研究を深めたり、「起業家入門Ⅱ」で企画したものを『課題研究』で商品化したりしながら、地域活性化に向けた研究を継続している。テーマ設定においては、例えば「牛尾山の梅」という同一の素材であっても、研究へのアプローチを変えるなど生徒のテーマ設定の自由度を高める工夫をしており、学習への意欲向上を図っている。

「実践性」についての具体的な取組，工夫している点など



＜地域の梅林での環境保全活動の様子＞

本校がある小城市においては、県内の多くの自治体と同様、人口減少や少子高齢化等の課題を抱え、これからの地域活性の在り方について様々な視点で議論されている。

そのような中、生徒たちは、地域の特性を生かした未来の姿を高校生の視点で捉え、多くの個性的なアイデアを創出してきた。これら地域の課題解決の企画は、様々な機会を捉えて発表しているが、中でも、県が主催する令和 3 年度の「第 5 回企画甲子園」では、66 点の応募の中、第 3 位に当たる企画賞を受賞した。地元特産の鯉料理の認知度アップと販路拡大に関する新商品の企画が評価され、現在、県の関係部

局において商品化の方向で検討されているところであり、実現すれば小城市の魅力発信に大きな効果が期待できる。

企画提案の過程で、地域の実情を調査したり、将来の地域の在り方について考えを深めたりすることは、探究的な能力はもちろん、課題対応能力も伸ばすことができ、それが地域住民との協働に向かう姿勢へとつながっていると確信している。

さらに、近隣の小中学校や児童クラブから、活動充実のため高校生の力を借りたいという要望も年々増え、生徒達にも「地域の子どもたちは自分たちと一緒に育てていこう」という意欲の高まりが見られ、高校生ならではのフレッシュな感性で、食育や製作活動を企画し実践している。自らが教える立場となることは更なる学びに向かう態度の伸長にも役立っている。

「発展性」についての具体的な取組，工夫している点など

「起業家入門Ⅰ」で企画した地域課題の解決に向けた提案の発表会には、地域住民も招待して直接意見交換ができるよう工夫しており、本校の「起業家マインドを身に付けた生活産業のスペシャリスト育成」の取組への地域の理解が深まっている。

また、これまでのキャリア教育の取組で、本校服飾デザイン科が服飾関連商品のブランドネーム及びそれを販売する店舗として「牛姫工房」を立ち上げ、平成 19 年度に商標登録を行った。小城市の草木で染色したバッグやストール等、地域の資源を利用した質の高い手作りの商品の製作・販売を続けている。フードデザイン科や食品調理科も、小城市の農産物を活用したジャムやドレッシング、ステーキソース、パンや菓子類を地域企業とともに開発し、商品化している。

上記取組を継続してきた結果、小城市やそれ以外の市町からの街づくりのイベント等への参加依頼も増え、地域企業とコラボした弁当等の調理・販売、特産物の PR 活動、小中学校の出前授業の依頼も多く、生徒にとっては、家庭科に関する専門的知識や技術の獲得意欲の更なる向上とともに、地域を思い、貢献したいという気持ちの高まりにつながっている。

なお、地域活性化の会合等には本校職員も参加して意見を述べるなど、住民とのつながりを大切にする学校の姿勢は、商工会議所等からも評価され、新たに、地元企業の商品需要調査や商品開発の協力依頼も来ており、協働体制の強化につながっている。

学校現場の評価・感想・コメント

- 「起業家入門」は、毎年多くの生徒が希望するために選抜せざるを得ない人気の学校設定科目となっている。2年次に受講した生徒が3年次の課題研究ではリーダー的な役割を果たしており、受講者以外の生徒に対する良い影響も与えており、生徒全体の基礎的・汎用的能力の伸長に非常に役立っている。
- ふるさと夢つむぎネットワークとの連携では、里山でのボランティアと、そこで得られた収穫物から商品を作り出すという二つの活動が連動しており、生徒の技術だけでなく、商品化に対する達成感から学習意欲の向上にも寄与している。
- 小城市や小城市教育委員会との連携では、本校の専門的な技術の活用の中場としても機能しており、生徒自らの技術向上に対する振り返りといった機能も持ち合わせている。

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

- 校長先生はじめ担当教員と産業界が「起業家マインドを有したスペシャリストを育成する」という共通の思いから、キャリア教育を推進する協働体制ができている。牛津高校のキャリア教育のテーマは、今では地域活性化の企画にも展開され、地域の方々からの期待も大きい。また、この活動が17年間継続されている結果は、継続的な地域の発展に寄与しており、高く評価されるものである。（NPO 法人鳳雛塾）
- どこの地域でも抱えている問題である、高齢化と担い手不足に伴い日本の里山は急速に荒廃して来ています。こうした問題を解決するには里山の魅力を発信し、足を運んで貰うことから始まると思います。子供が野山で遊んで居た時代とは違う現代ではきっかけが無いと自然に触れ合う事が難しくなっています。この活動を通して、里山で自然に触れ合う事を肌で感じてその体験を原体験として自然に興味を持つきっかけになれば良いなと思っています。ふるさとを紡いで、人との繋がりや輪を広げる活動を今後もお願いします。（ふるさと夢つむぎネットワーク）